

令和3年2月

滋賀大学大学院経済学研究科（博士前期課程）

『研究テーマ及び著作リスト』

このリストは、本学大学院担当教員の研究テーマ及び5点以内の著作リストを選び作成したものです。

出願者は、出願書類の研究計画書の作成と入学後の研究指導教員を選ぶにあたり、このリストを参考にしてください。

ただし、令和3年度入学者選抜に研究指導学生を募集しない教員については、このリストから除いてあります。

また、リストのなかで「著書・編著・共編著」などと表示されているもの以外は、すべて「論文」です。

目 次

経済学専攻	1～11頁
経営学専攻	12～22頁
グローバル・ファイナンス専攻	23～26頁



より詳細な研究科の情報を知りたい方は、
滋賀大学研究者情報総覧をご覧ください。

<https://researchers.shiga-u.ac.jp/search?m=home&l=ja>

経 済 学 専 攻

谷 川 義 行 准 教 授

研究テーマ：ミクロ経済学，一般均衡理論，数理経済学

著作リスト：①「無限次元財空間における経済の一般均衡存在定理について」

『一橋論叢』1995年12月号

②「無限次元財空間と私有制経済—一般均衡存在命題における諸発展の重要な形式—」

『一橋論叢』1996年6月号

③“On the Existence of Walrasian Equilibrium in Large Square Production Economy—A Model of Commodity Differentiation—”

RUEE Working Paper#98-73 一橋大学経済学部，1998年1月

④「非完備条件付き財市場における一般均衡存在命題—無限期間／無限分岐に纏わる諸問題を中心として—」

『彦根論叢』第316号，1998年12月 / 第318号，1999年3月(2分冊)

⑤“Increasing Returns and Externalities—An Equilibrium Existence Theorem—”

Working Paper#56 滋賀大学経済学部，1999年1月

鈴木康夫 教授 博士（経済学）

研究テーマ：景気変動とマクロ経済政策，景気循環とインフレ，経済成長と経済発展，動学的厚生経済学，資源及び環境開発問題

著作リスト：①（著書）『不安定性原理とハロッド＝ドーマー型経済変動成長理論』

『滋賀大学経済学部研究叢書』第35号，2001年3月

②「ハロッド＝ドーマー型モデルと現代経済成長理論」

『彦根論叢』第332号，2001年10月

③「I S．LM体系の動学分析とケインジアンマクロ経済政策」

『滋賀大学経済学部研究年報』第8巻，2002年3月

④（著書）『ケインズ革命とマクロ経済学』昭和堂，2003年3月

⑤「基本的な最適成長モデルと完全雇用」

『彦根論叢』第344・345号，2003年11月

大 瀨 巖 准 教 授 博 士 (数 理 学)

研究テーマ：カオスコミュニケーションシステムにおける通信誤差確率の統計的評価

- 著作リスト：① Exact Calculation of Bit error Rates in Chaos Communication Systems
滋賀大学経済学部 Working Paper Series, No. 76, February 2003.
- ② New Approximations of Bit Error Rate in Chaos Shift-keying Systems
滋賀大学経済学部 Working Paper Series, No. 77, February 2003.
- ③ Exact Calculation of Bit Error Rates in Communication Systems With Chaotic Modulation
IEEE Transactions on Circuits and Systems I : Fundamental Theory and Applications, Vol. 50, No. 11, November 2003.

田 中 英 明 教 授 博 士 (経 済 学)

研究テーマ：マルクス経済学および制度的・進化的アプローチによる市場機構の研究

- 著作リスト：① (著書) 信用機構の政治経済学－商人的機構の歴史と論理－
日本経済評論社, 2017年2月
- ② 「セントラル・バンキング論の再考のために－中世後期以降の決済・信用機構と, アムステルダム振替銀行」
『彦根論叢』第394号, 2012年12月
- ③ 「商品の『資本性』－空所の純粹性から」
『彦根論叢』第382号, 2010年1月
- ④ 「最後の貸し手」と「中央銀行」－バジヨット『ロンバード街』の検討を通じて 小幡道昭・青才高志・清水敦編『マルクス理論研究』御茶の水書房, 2007年3月
- ⑤ 「システムとしての銀行と信用創造」
『季刊 経済理論』(経済理論学会編) 第42巻第4号, 2006年1月

御崎加代子 教授 博士（経済学）

研究テーマ：ワルラスを中心とする経済学史，フランス経済思想史

著作リスト：① The concept of Labor Market in Léon Walras' Pure, Social and Applied Economics, *Economia- History/Methodology/Philosophy*, 8(4), pp. 419-438.

December 2018.

② “History, Philosophy, and Development of Walrasian Economics”,
the *Encyclopedia of Life Support System* (EOLSS), the UNESCO, 6.28.38, 2012.

③ (共編著) “Transforming of rareté? From Auguste- to Léon Walras”,
Ikeda, Y. & Yagi, K. (eds.) *Subjectivism and Objectivism in the History of
Economic Thought*, pp. 59-72. Routledge, London & New York, 2012.

④ (著書) 『フランス経済学史—ケネーからワルラスへ』昭和堂，2006年

⑤ (著書) 『ワルラスの経済思想—一般均衡理論の社会ヴィジョン』
名古屋大学出版会，1998年

松田有加 教授 博士（経済学）

研究テーマ：財政学・租税論

著作リスト：① 「スウェーデンにおける勤労所得税額控除のワーキングプア対策としての可能性」
彦根論叢・No. 415, 2018年

② 「スウェーデンにおける租税支出」彦根論叢・No. 410, 2016年

③ 「税制改革——国際的な動向と今後の課題」

植田和弘・諸富徹編『テキストブック現代財政学』有斐閣ブックス，2016年

④ 「フィッシャーの『支出税』の特徴と意義」

宮本憲一・鶴田廣巳・諸富徹編『現代租税の理論と思想』有斐閣，2014年

⑤ 「国際租税制度と租税競争」

植田和弘・新岡智編『国際財政論』有斐閣ブックス，2010年

和田佳之 准教授

研究テーマ：いわゆる“市場の失敗”を中心とした応用マイクロ経済学（環境経済学，法と経済学，公共選択論など）

著作リスト：① “Countermeasure against Externalities by the Victim”
『彦根論叢』第323号，2000年

② “An Interpretation of Voting as a Collective Action”
『彦根論叢』第340・341号，2003年

③ “Connecticut and Its Environmental Policies”
『滋賀大学経済学部研究年報』第10巻，2003年

④ 「自動車速度規制の経済分析」
『彦根論叢』第357号，2006年

⑤ “Re-Examination of the Efficiency of the Joint and
Several Liability System”
『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』第7巻第1号，2010年8月

中野 桂 教授 Ph. D. (経済学)

研究テーマ：産業組織論／マイクロ経済学／環境問題

企業結合／法人株式保有／コーポレートガバナンス／談合

- 著作リスト：① “Asset Pricing in Japan : A Communication (with Makoto Saito)”
Journal of the Japanese and International Economies, Vol.12, pp.151-166,
1998.
- ② “Corporate Shareholding in Japan : Empirical Testing”
Center for Japanese Research, University of British Columbia, 98-1, 1998.
- ③ “Corporate Shareholding in Japan”
博士論文, University of British Columbia, 1999.
- ④ “Corporate Shareholding and Agency Cost”
Hikone Ronso, 330, pp131-164, 2001.
- ⑤ 「水上レクリエーションの水環境の及ぼす影響：水上オートバイを例に」
『水資源・環境研究』13, pp21-27, 2001.

石井 利江子 准教授 博士 (経済学)

研究テーマ：オークションデータの分析，応用計量経済学

- 著作リスト：① “Favor exchange in collusion: Empirical study of repeated procurement
auctions in Japan”
International Journal of Industrial Organization Vol27-2,
2009年3月
- ② “Bid roundness under collusion in Japanese procurement auctions”
Review of Industrial Organization, Vol.44-3, 2014年3月
- ③ “Research and analysis on bid rigging mechanisms (with K.Arai and
I. Ishibashi)”
Japan and the world economy Vol.23-1, 2011年1月

山田 和代 教授

研究テーマ：戦後日本労働史

- 著作リスト：① 「労働運動にみる男女雇用平等実現への課題：均等法制定前後の総評婦人局の諸
相から」
『大原社会問題研究所雑誌』（法政大学大原社会問題研究所）635・636号，2011年
- ② 「ジェンダー雇用平等と労働運動」
藤原千沙・山田和代編『労働再審③ 女性と労働』大月書店，2011年
- ③ 「看護師の職務と賃金」
森ます美・浅倉むつ子編『同一価値労働同一賃金原則の実施システム』
有斐閣，2010年
- ④ 「戦後労働史とジェンダー：賃金・雇用・労働運動をめぐって」
米田佐代子・大日方純夫・山科三郎編『ジェンダー視点から戦後史を読む』
大月書店，2009年
- ⑤ “Past and Present Constraints on Labor Movements for Gender Equality in
Japan”
Social Science Japan Journal (Institute of Social Science, University
of Tokyo), 2009年

小倉明浩 理事

研究テーマ：先進国と発展途上国間の経済関係の研究

途上国間の地域経済統合の開発戦略としての可能性の研究

著作リスト：①「地域経済統合と経済安定化・自由化政策－MERCOSURの事例によって」

『彦根論叢』第299号，1996年1月

②「世界経済の構造変化のもとでの地域経済統合－ラテンアメリカのケースから」

『彦根論叢』第320号，1999年8月

③（共編著）『グローバル経済』世界思想社，1999年8月

④「グローバリゼーション下における開発戦略の可能性」

『彦根論叢』第322号，1999年12月

⑤「市場，政府，国際関係－開発における制度をめぐって」

『彦根論叢』第329号，2001年2月

佐野洋史 教授 博士（経済学）

研究テーマ：医療・介護従事者不足の原因解明と解決策の導出に関する研究

著作リスト：①Does lack of resources impair access to breast and cervical cancer screening in Japan? Plos One, Vol. 12, No. 7, pp. 1-16. 2017年7月

②へき地の勤務条件に対する大都市の内科系勤務医の選好

『日本労働研究雑誌』No. 680, pp. 86-101. 2017年2月

③介護保険外サービス需要の決定要因

『季刊家計経済研究』No. 99, pp. 52-61. 2013年07月

④研修医の就業場所の選択要因に関する分析

『医療経済研究』Vol. 22, No. 2, pp. 161-178. 2011年5月

⑤医師の就業場所の選択要因に関する研究

『季刊社会保障研究』Vol. 45, No. 2, pp. 170-182. 2009年9月

金 秉基 教授 博士（経済学）

研究テーマ：発展途上国の経済開発政策と成長要因分析、国際協力と開発援助に関する研究

著作リスト：①（共編著）Does the Export-led Growth Hypothesis Hold for Myanmar?, Global Business Review, Online, 2020年1月

②（共編著）Are Devaluations Expansionary in Laos?,

Global Business Review, Vol 20, No 1, 72-83, 2019年2月

③（共編著）Does Education Promote Economic Growth in Lao PDR? Evidence from Cointegration and Granger Causality Approaches ,

The Journal of Developing Areas, Vol 52, No 2, 1-11, 2018年1月

④（共編著）The Causality of Dollarisation, Interest Rate and Exchange Rate: Evidence from Laos, Global Business and Economics Review, Vol 20, No 1, 115-125,

2018年1月

⑤（共編著）“A Note on the Electricity-Growth Nexus in Lao PDR”

Renewable & Sustainable Energy Reviews, Vol 77, 1251-1260, 2017年9月

田中勝也 教授 Ph. D.

研究テーマ：生態系保全の経済分析

持続可能な地域社会形成の経済分析

著作リスト：① ソーシャル・キャピタルが地方創生に与える影響- 市区町村 GIS データによる空間計量経済分析 - 経済分析 197:53-69. 2018年

② Value spillovers from the Korean DMZ areas and social desirability
Journal of Behavioral and Experimental Economics. 2018年

③ An Economic Valuation of Urban Green Spaces in Kuala Lumpur City
Pertanika Journal of Social Sciences and Humanities 26(1). 2018年

④ Estimating the provincial environmental Kuznets curve in China: a geographically weighted regression approach
Stochastic Environmental Research and Risk Assessment 2017:1-17.
2017年

⑤ Institutional Mechanisms and the Consequences of International Environmental Agreements
Global Environmental Politics 17(1):77-98. 2017年

松下京平 教授 博士（人間・環境学）

研究テーマ：自然資源管理・エネルギー・ソーシャルキャピタル

著作リスト：① Linkage between Crop Diversity and Agro-Ecosystem Resilience: Nonmonotonic Agricultural Response under Alternate Regimes,
Ecological Economics, 126, 23-31, 2016

② Reducing CO₂ Emissions of Japanese Thermal Power Companies: A Directional Output Distance Function Approach,
Environmental Economics and Policy Studies, 16, 1-19, 2014

③ Study Plans Concerning Monetary Evaluation of Mitigation Measures for the Fukushima Daiichi Accident, *Energy Procedia*, 34, 937-944, 2013

④ Pollution from the Electric Power Sector in Japan and Efficient Pollution Reduction, *Energy Economics*, 34(4), 1124-1130, 2012

⑤ 農地・水・環境保全向上対策とソーシャル・キャピタル
農業経済研究, 80(4), 2009

森 宏 一 郎 教 授 P h . D . (環 境 経 済 学 ・ 環 境 マ ネ ジ メ ン ト)

研究テーマ：環境経済学、都市のサステナビリティ、環境教育
環境配慮行動の実験経済学、医療政策

- 著作リスト：①（共著）Effectiveness of Incorporating the Concept of City Sustainability into Sustainability Education Programs : Sustainability11(4736), 1-23. 2019年
- ② Methods for Specifying Spatial Boundaries of Cities in the World: The Impacts of Delineation Methods on City Sustainability Indices
Science of the Total Environment, 592, 345 - 356. 2017年
- ③ Review of Sustainability Indices and Indicators: Towards a New City Sustainability Index (CSI) Environmental Impact Assessment Review, 32, 94 - 106. 2012年
- ④（編著）メガシティとサステナビリティ 東京大学出版会, 2016年
- ⑤（著書）人にやさしい医療の経済学 - 医療を市場メカニズムにゆだねてよいか 信山社, 2013年

永 田 え り 子 教 授

研究テーマ：権利、数理社会学、社会システム

- 著作リスト：①（著書）『道徳派フェミニスト宣言』勁草書房, 1997年10月
- ②「フェミニズムとリバータリアニズム」
江原由美子編『フェミニズムとリベラリズム』勁草書房, 2002年
- ③「合理性と倫理性-他者危害原則のフォーマライゼーションとそのインプリケーション」『理論と方法』数理社会学会機関誌, 2001年
- ④「権力なんかこわくない」『現代人の社会学入門』有斐閣, 1996年
- ⑤「モデルと現実との適切な距離-複雑性の社会学をめぐる」
『複雑系を考える-自己組織性とはなにかII』ミネルヴァ書房, 2001年

黒 石 晋 教 授

研究テーマ：一般システム理論の視角によるマクロ理論社会学（社会構造論、社会変動論を中心）特に、人間の「欲望」の概念に立脚した社会システム論、貨幣論、権力論の構築

- 著作リスト：①（著書）『欲望するシステム』（シリーズ「社会システム学」第2巻）
ミネルヴァ書房, 2009年2月
- ②（著書）『システム社会学』ハーベスト社, 1991年12月
- ③（共編著）『社会システム学をめざして』（シリーズ「社会システム学」別巻）
ミネルヴァ書房, 2011年9月
- ④（共編著）『複雑系を考える』ミネルヴァ書房, 2001年7月
- ⑤「社会的散逸構造としての貨幣」『文明の未来, その扉を開く』
晃洋書房, 2003年6月

鍋倉 聰 教授 博士（文学）

研究テーマ：シンガポールをはじめとするアジア都市社会に関する比較社会学的研究

- 著作リスト：①（著書）『シンガポール「多人種主義」の社会学：団地社会のエスニシティ』
世界思想社，2011年3月
- ②「シンガポールにおける「多人種主義」の実践：団地政策にみる人種編制のメカニズム」『ソシオロジ』50巻3号，2006年2月
- ③「シンガポールにおける住宅団地再開発に関する一試論」
『東南アジア研究』45巻2号，2007年9月
- ④「シンガポールにおける1958年までの団地内外の住居をめぐるせめぎ合いに関する社会学研究」『彦根論叢』414号，2017年12月

谷上 亜紀 教授 博士（行動科学）

研究テーマ：メタ認知の基盤となるメカニズムについての実験的研究

- 著作リスト：①「同定判断と対象の認知」心理学評論，Vol. 35, No.2, 1992年
- ②「漢字想起の自己評価－失語症患者と健常者の比較」
心理学研究，Vol. 68, No.1, 1997年
- ③「再学習法と記憶の測定」心理学評論，Vol. 41, No.3, 1998年
- ④「問題の難易度に関する情報が確信度判断およびF O K判断に及ぼす効果」
心理学研究，Vol. 73, 2002年

大村 啓喬 准教授 博士（国際公共政策）

研究テーマ：紛争研究

- 著作リスト：①「内戦，経済成長，天然資源——天然資源は祝福 (blessing) か，呪い (curse) か？」『国際政治』165号、16－29頁 2011年8月
- ②“Termination and Recurrence of Civil War: Which Civil War Outcomes Lead to Durable Peace After Civil War”
Japanese Journal of Political Science 12(3): 375-398. 2011年11月
- ③“Civil War, Natural Resources, and Democracy: When Do Natural Resources Lead to Civil War?” 『彦根論叢』399号、172－185頁 2014年3月
- ④武力衝突と日本の世論の反応」（大村華子との共著）
『レヴァイアサン』54号、70－90頁 2014年4月
- ⑤“Natural Resources and the Dynamics of Civil War Duration and Outcome.”
Asian Journal of Comparative Politics, 3(2), 133-148. 2018年6月

宗野隆俊 教授 博士（法学）

研究テーマ：都市内分権、コミュニティ、市民参加

- 著作リスト：①（著書）『近隣政府とコミュニティ開発法人 アメリカの住宅政策にみる自治の精神』 ナカニシヤ出版，2012年12月
- ②（共編著）『地域自治の最前線 新潟県上越市の挑戦』
ナカニシヤ出版，2013年11月
- ③「アメリカのコミュニティ開発法人」，
日本地方自治学会編『基礎自治体と地方自治』，2015年10月
- ④「市民的関与とは何か」，
『彦根論叢』第412号、36-51頁，2017年6月
- ⑤「ポートランド市の近隣アソシエーション」，
『滋賀大学経済学部 研究年報』第24巻、21-42頁，2017年11月

能登真規子 教授

研究テーマ：保証契約、身元保証

- 著作リスト：①「民法改正と『保証人の保護』」加藤新太郎ほか〈編〉『21世紀民事法学の挑戦
〔加藤雅信先生古稀記念〕上巻』信山社711-734頁，2018年3月
- ②「民法改正と身元保証」名古屋大学法政論集270号〔千葉恵美子教授退職記念論
文集〕94-114頁，2017年2月
- ③「現代の身元保証（6・完）—2012年度実態調査—」
『彦根論叢』404号46-63頁，2015年6月
- ④「身元保証の裁判例（2・完）—過去20年間の裁判例の検討—」
『彦根論叢』393号50-65頁，2012年9月
- ⑤「保証人の『過大な責任』—フランス保証法における比例原則—」
名古屋大学法政論集227号〔加藤雅信教授退職記念論文集〕371-395頁，
2008年12月

坂田雅夫 准教授 博士（法学）

研究テーマ：国際経済法

- 著作リスト：①「投資協定仲裁における先住民族権利問題」
『彦根論叢』405号，2015年9月
- ②「公正衡平待遇条項の適用実態」
『日本国際経済法学会年報』23号，2014年10月
- ③「国際法における株主の保護：国際法委員会外交的保護条文草案及び国際司法
裁判所ディアロ事件判決を中心として」
『彦根論叢』397号，2013年9月
- ④「投資協定の「国内法に従った投資」条項を巡る解釈対立の意義」
『新世代法政策学研究』4号，2009年12月
- ⑤「投資保護条約の傘条項が対象とする国家契約の違反行為：最近の判例・学説
に見られる「主権的行為論」の根拠の検討を中心として」
『同志社法学』58巻2号，2006年6月

青柳周一 教授 博士（文学）

研究テーマ：近世日本観光地域史・旅行文化史の研究，近世日本宗教社会史の研究

- 著作リスト：①（著書）『富嶽旅百景 観光地域史の試み』角川書店，2002年2月
②（共編著）「近世の宗教と社会 1 地域のひろがりと宗教」
吉川弘文館，2008年5月
③「近世における寺社の名所化と存立構造—地域の交流関係の展開と維持—」
『日本史研究』547号，2008年3月
④「移動する商人—南東北地方における日野商人・中井源左衛門光熙の店廻り
について—」 『講座 東北の歴史』第1巻，2012年12月
⑤「近世の「観光地」における利益配分と旅行者管理体制
—近江国下坂本村を事例に—」
『ヒストリア』241号，2013年12月

阿部安成 教授

研究テーマ：日本の19世紀後半から20世紀初頭にかけて、伝染病、地震、都市祭典、殺人事件
などを素材にして、社会史研究、文化研究をおこなう

- 著作リスト：①（共編著）『記憶のかたち：コメモレイションの文化史』柏書房，1999年5月
②「鯰絵のうえのアマテラス」『思想』No. 912，2000年6月
③「養生から衛生へ」
『岩波講座近代日本の文化史』第4巻，岩波書店，2002年2月
④きずなに絆される：震災とひとのつながりへのヒストリカル・スタディーズ
にむけて
森村敏己ほか編『集いのかたち』柏書房，2004年5月
⑤「都市周縁に向う感知の力：20世紀初頭の横浜」
中野隆生編『都市空間の社会史』山川出版社，2004年5月

福浦厚子 教授 博士（人間・環境学）

研究テーマ：文化人類学，宗教・ジェンダー

- 著作リスト：①（著書）『都市の寺廟——シンガポールにおける神聖空間の人類学』
春風社 2018年3月
②（共編著）「コンバット・ストレスの様相：シェル・ショックから
二次トラウマへ」，
田中雅一・松嶋健編著『トラウマ研究2 ト라우マを共有する』
京都大学学術出版会，2019年4月
③シンガポールの寺廟祭祀における主席・道士・童乩
『文化人類学』第79巻3号 2014年12月

◎以下の教員は12頁～25頁を参照のこと(掲載順)

山下 悠 准教授 博士 (商学)

増山裕一 教授 博士 (経済学)

吉田裕司 教授 博士 (経済学)

井手一郎 准教授

近藤豊将 教授 博士 (経済学)

経営学専攻

竹中厚雄 准教授 博士（経営学）

研究テーマ：技術開発および国際化の戦略と組織マネジメント

著者リスト：①「日本企業における海外研究開発の促進要因-電気機器メーカーの分析-」

『研究技術計画』第18巻第3・4号 2004年

②「技術的多角化と知識吸収能力-日本エレクトロニクス企業の分析」

『経営と情報』第19巻第2号 2007年

③（著書）「立地優位と競争力」影山喜一編 『地域マネジメントと起業家精神』

第2章 雄松堂出版 2008年

陳韻如 准教授 博士（経済学）

研究テーマ：経営戦略と組織間関係のマネジメント

著者リスト：①（共編著）「松下電器に見るストラテジック・アライアンスとコンピュータ産業

への再参入」赤岡功・日置弘一郎編著『経営戦略と組織間提携の構図』

中央経済社，第10章 2005年

②「新技術の形成における新旧技術・組織の調整-パナソニックの「レッツノート」のケーススタディ」

『九州国際大学社会文化研究所紀要』第64号 2009年

③「企業行動に見る標準化プロセスに影響を与える要因：次世代DVDのケーススタディ」『九州国際大学経営経済論集』第16巻第3号 2010年

④「台湾スマートフォン産業におけるビジネス・エコシステムの構築可能性」

『滋賀大学経済学部Working Paper』No. 209, 2013年

⑤「中国スマートフォン企業の戦略のダイナミクス」，

『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』Vol. 15, No. 1, 2018年

柴田淳郎 准教授 博士（経営学）

研究テーマ：経営戦略，経営管理，企業統治及び地場産業・伝統産業に関する国際比較経営制度に関する研究

著者リスト：①「日本型スピンオフ戦略の形成プロセスと論理-日本陶器合名会社の事例分析-」
日本経営学会誌22巻，2008年10月

②「地場産業のビジネスシステムと競争行動-九谷焼産地と瀬戸焼産地の人材育成システムに焦点を合わせて-」

国民経済雑誌197巻4号，2008年4月

③「企業間協働と会社制度-有田焼産地の事例分析-」

国民経済雑誌197巻2号 2008年2月

④（共編著）「国際移転におけるコンテクストの共有-技術特性に対応した「適用・適応」-」

国民経済雑誌196巻2号 2007年8月

⑤「陶磁器産業における会社制度に関する研究」

神戸大学大学院経営学研究科，2006年3月

澤木 聖子 教授 博士（学術）

研究テーマ：多国籍企業における国際人的資源管理と異文化マネジメント

- 著作リスト：①「大連日系企業における日本語人材の活用と課題」小田野純丸・北村裕明編著
『経済経営リスクの日中比較』サンライズ出版，pp. 244-257. 2009年9月
- ②（共編著）『英語で経営する時代』有斐閣，2001年9月
- ③「グローバル化と経営者の英語感覚」
『グローバル経営』JANUARY，（社）日本在外企業協会，2002年1月
- ④（共著）「韓国企業の国際経営と英語（上）（下）」吉原英樹・岡部曜子との共著
『世界経済評論』Vol. 45, No. 1-2, （社）世界経済研究協会，2001年1, 2月
- ⑤（共編著分担執筆）「企業における国際人材育成」若林満・原岡一馬編著
『組織コミュニケーション－個と組織との対話－』福村出版，1993年3月

清宮 政宏 教授 博士（経営学）

研究テーマ：産業財取引を中心に，様々な企業のマーケティング活動と成果との因果関係に
関して，実証的な検証を目指している。

- 著作リスト：①「ミニ・ケースの作成とその使用に関する報告～初歩的な定量分析の
理解を目指した演習ケースの作成と使用について～」
滋賀大学経済学部附属リスク研究センターディスカッション
ペーパーシリーズ No. J-17. 2012年2月
- ②「営業行動の選択とその有効性に関する一考察～提案型営業と適応
型営業から垣間見える動態性分析のための新視点～」
『彦根論叢』第391号:pp168-181, 2012年3月
- ③「営業活動における動態性分析に向けた視座について」
滋賀大学経済学部附属リスク研究センターディスカッション
ペーパーシリーズNo. J-6, 2010年12月
- ④「ミニ・ケース作成とその使用に関する報告～サトウ自動車工業・
Nextプリンター社・下総醤油・スギシタ電器産業～」
『彦根論叢』第381号:pp207-229, 2009年11月
- ⑤（共著）『1からの戦略論』
第5章「製品ライフサイクル別戦略」pp75-92, 碩学舎，2009年9月

岡本 哲弥 教授 博士（経済学）

研究テーマ：企業間取引に関するネットワーク分析

顧客満足および消費行動に関する実証研究

著作リスト：①（著書）『情報化時代の流通機能論』晃洋書房、2008年3月

②（共著）「重要度－満足度マトリクスにおける境界の基準化と有意性の適用」

『彦根論叢』第408号，pp. 4-19，2016年6月

③「自動車メーカー間の部品サプライヤーのオーバーラップ－3時点における所属ネットワークの変動－」

『商品開発・管理研究』第12巻2号，pp. 14-33，2016年3月

④（共著）「スポーツイベント関連要素のテレビ広告効果－2010FIFAワールドカップ期間放映広告を対象として－」

『彦根論叢』第398号，pp. 124-139，2013年12月

⑤「国内乗用車の販売構成比推移の予測－マルコフ連鎖モデルによるシミュレーション－」『商品開発・管理研究』第9巻2号，pp. 2-19，2013年3月

太田 善之 教授

研究テーマ：ドイツ会計学に関する研究

期間損益計算に関する研究

著作リスト：①「研究開発費の会計に関する一考察」

『龍谷大学経営学論集』第45巻 第3号 2005年12月

②「現金および資本についての管見」『会計』第161巻 第1号，2002年1月

③「収益会計」

『財務会計の進展』第2編第5章，井上良二編著 税務経理協会 1999年12月

④「シュマーレンバッハ動態論再検討－その生成と本質に関する一考察」

『滋賀大学経済学部研究年報第5巻』 1998年12月

⑤「会計における『相殺』思考」『会計』森山書店 第152巻第1号，1997年7月

小野 善生 教授 博士（経営学）

研究テーマ：定性的方法論による管理者行動およびリーダーシップ研究

著作リスト：①（著書）「フォロワーが語るリーダーシップ・認められるリーダーの研究」有斐閣 2016年12月

②（著書）「リーダーシップ徹底講座－すぐれた管理者を目指す人のために－」

中央経済社 2018年4月

③（著書）「最強のリーダーシップ理論集中講義」日本実業出版社 2013年2月

④「企業再建に導くリーダーシップの研究・フェニックス電機株式会社企業再建プロセスの事例分析」 組織科学第40巻第4号 2007年6月

⑤「リーダーシップ行動の再検討－エーザイ株式会社アルツハイマー型認知症治療薬「アリセプト」探索研究チームの事例研究－」

日本経営学会誌第19号 2007年5月

竹村幸祐 教授 博士（経営学）

研究テーマ：社会心理学・文化心理学・進化心理学

- 著作リスト：①Being different leads to being connected: On the adaptive function of uniqueness in "open" societies., *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 45, 1579-1593., 2014年11月
- ②Self-expression and relationship formation in high relational mobility environments: A study of dual users of American and Japanese social networking sites., *International Journal of Psychology*, 52, 251-255., 2017年6月
- ③Contextual effect of wealth on independence: An examination through regional differences in China, *Frontiers in Psychology*, 7, Article 384., 2016年3月
- ④Farming cultivates a community-level shared culture through collective activities: Examining contextual effects with multilevel analyses. *Journal of Personality and Social Psychology*, 116, 1-14., 2019年1月
- ⑤Cross-cultural differences and similarities in proneness to shame: An adaptationist and ecological approach. *Evolutionary Psychology*, 10, 352-370., 2012年6月

可児島達夫 准教授

研究テーマ：会計利益計算構造に関する研究

- 著作リスト：①「顧客対価モデルに基づく収益認識における履行義務の測定」
『彦根論叢』第385号，2010年10月
- ②「業績報告をめぐる最近の国際的動向」
『JICPAジャーナル』第15巻第7号，2003年7月
- ③「イギリスにおける財務業績の報告と概念フレームワーク」
『会計』第163巻第6号，2003年6月
- ④（共編著）「ルーマニアの会計」
藤井則彦編著『中東欧諸国の会計と国際会計基準』
同文館出版，第6章，2003年3月
- ⑤「イギリスにおける財務会計概念フレームワークに関する一考察」
『彦根論叢』第331号，2001年6月

笠井直樹 准教授 博士（経営学）

研究テーマ：監査の品質，利益調整，会計発生高の質，監査報酬，業種特化，
継続監査期間，監査チーム構成，会計不正

- 著者リスト：①「第3章：会計不正の予測と監査人の特徴」瀧博編著『テクノロジーの進化と監査』，同文館出版，2020年
- ②「監査人の業種特化と監査の品質に関する実証分析—監査事務所および監査担当パートナーのデータを用いた検証」，滋賀大学経済学部Working Paper Series(287), 2019年5月
- ③「第3部第2章：レビュー業務の経済的効果に関する実証分析（首藤昭信・高田知実と共著）」松本祥尚編著『監査・証明業務の多様性に関する研究』日本公認会計士協会出版局，2019年1月
- ④「The Combined Effects of Long Audit Partner Tenure and Audit Fees on Audit Quality: Evidence from Japan」『国民経済雑誌』218(1), 2018年7月.
- ⑤「Ownership Structure, Audit Fees, and Audit Quality in Japan」『滋賀大学経済学部Working Paper Series』(216), 2014年8月.

野田昭宏 教授 博士（経営学）

研究テーマ：進化ゲームによる会計制度形成課程の分析
経営者による利益調整行動の分析

- 著作リスト：① “Auditor choice as a commitment device,” *Journal of Financial Reporting and Accounting* Vol. 16, No. 3 (forthcoming) 2018年
- ②「環境負債開示の動学分析：レプリケータ・ダイナミクスによる自発的情報開示の安定性解析」『年報 経営ディスクロージャー研究』第12号1-18頁
2013年3月
- ③「環境負債認識におけるコミットメントの機能—推定的債務認識の分析—」
『社会関連会計研究』第25号45-61頁 2013年11月
- ④「環境負債の自発的開示：企業の環境情報開示に対する規制の影響」
『社会関連会計研究』第24号95-111頁 2012年11月
- ⑤「資産除去債務会計が環境コストに及ぼす影響」『環境経済・政策研究』第4巻第2号1-11頁 2011年9月

宮西賢次 准教授

研究テーマ：キャッシュ・フロー情報の有用性に関する研究

- 著作リスト：①（編著）『財務会計のフロンティア』中央経済社，1993年11月
②（編著）『管理会計のフロンティア』中央経済社，1994年4月
③「キャッシュ・フロー指標と主成分分析」
『大阪大学経済学』第40巻第1・2号，1991年3月
④「財務諸表分析におけるキャッシュ・フロー情報の有用性」
『原価計算研究』Vol. 17，1992年11月
⑤「CRRアプローチの理論的發展と問題点」
『彦根論叢』第287・288号，1994年4月

赤塚尚之 准教授

研究テーマ：会計の制度研究（とくに引当金会計）

- 著作リスト：①IASB「2018年概念フレームワーク」と引当金会計（4）
—関連を有する引当金（偶発）資産の認識の非対称—
滋賀大学経済学部 working paper No. 282 2019年2月
②IASB「2018年概念フレームワーク」と引当金会計（3）
—「履行価値」による測定—
滋賀大学経済学部 working paper No. 281 2019年1月
③「2018年概念フレームワーク」と引当金会計（2）
—蓋然性要件を含む認識要件に及ぼす影響について—
滋賀大学経済学部 working paper No. 280 2018年12月
④IASB「2018年概念フレームワーク」と引当金会計（1）
—経済的資源の移転が報告主体の将来行動によって条件付きとなる場合における現在の債務の識別に及ぼす影響について—
滋賀大学経済学部 working paper No. 279 2018年11月
⑤地方銀行単体の業績指標の価値関連性
—業務純益を明示しない損益計算書の様式の妥当性に関して—
現代ディスクロージャー研究17号 2018年10月

北田真紀 准教授 博士（経営学）

研究テーマ：無形資産と環境業績の関係についての実証的考察

- 著作リスト：①「無形資産としての人的資本が環境業績に与える影響についての実証分析—「環境経営度調査」のデータを用いた実証分析—」
＜査読・有＞『メルコ管理会計研究』第9巻 第II号 平成29年7月
- ②「無形資産と環境業績の理論的關係についての考察」
＜査読・無＞『大阪大学経済学』第63巻 第3号 平成25年12月
- ③「無形資産としてのイノベーションが環境業績に与える影響—「環境経営度調査」のデータを用いた実証分析—」
＜査読・無＞『大阪大学経済学』第64巻 第3号 平成26年12月
- ④「無形資産としてのイノベーションと財務業績の関係についての実証分析」
＜査読・無＞『立命館経営学』第54巻 第5号 平成28年2月
- ⑤「環境業績の測定尺度についての一考察—環境汚染物質の排出量に着目して—」,
＜査読・無＞、『彦根論叢』第418号, 平成30年12月

内藤雄志 准教授 博士（経営工学）

研究テーマ：組合せ最適化と協力ゲーム理論の数理的研究

- 著作リスト：① “A note on the Frank-Tardos bi-truncation algorithm for crossing-submodular functions.”
Mathematical Programming. Vol. 53, 1992年2月
- ② “A GREEDY ALGORITHM FOR MINIMIZING A SEPARABLE CONVEX FUNCTION OVER A FINITE JUMP SYSTEM”
Journal of Operations Research Society of Japan.
Vol. 38, No. 3. 1995年9月
- ③ “On some properties of the ε -core of games with coalition structure.”
International Journal of Game Theory. 1999年5月.
- ④ “Convexity and d-revised link-convexity of restricted games on some intersecting family”
Working Paper No. 185, Faculty of Economics Shiga University, 2013年2月
- ⑤ “Structure of biset achievable families”
彦根論叢第399号 132-141 2014年3月

村松郁夫 准教授

研究テーマ：企業財務、証券市場に関する理論的および実証的研究

著作リスト：①「裁定評価理論と因子数－固有値分析を用いた因子数の推定に関して－」

『彦根論叢』第275号，平成4年3月

②（共著）『コーポレート・ファイナンス論の最前線』

中央経済社，平成7年9月

③「我が国証券市場におけるファクター数の推定－交差妥当化による実証研究－」

『彦根論叢』第298号，平成7年11月

④（共著）『構造変革期の企業財務』千倉書房，平成10年2月

⑤「A P Tの検証仮説－対角化ゼロ・ファクター・モデルと検証可能性－」

『滋賀大学経済学部研究年報』Vol. 5，平成10年12月

渡邊凡夫 教授

研究テーマ：マルチエージェントに基づくGISデータ獲得に関する研究

著作リスト：① T. Watanabe, T. Niwa and N. Ishii,

“Reconstruction of Polyhedral Object,”

Proc. of International conference of Image Processing, pp.203-211,
September 1992

② T. Watanabe and N. Ishii,

“The Design of GIS interface for Map Recognition Based on Linguistic
Descriptin,”

Proceeding of IATED International Conference of Simulation and
Modelling, pp.183-187, May 1993

③ T. Watanabe, N. Shimokawa, K. Satoh, T. Niwa and N. Ishii,

“A Trisl Construction of GIS for the Calculation of Fixed Tax,”

Proceeding of IATED International Conference of Simulation and
Modelling, pp.284-288, May 1994

④ T. Watanabe, N. Shimokawa, K. Satoh, T. Niwa and N. Ishii,

“A Study of Generation of Road Graph Network from Color Analog Map,”

Proceeding of IATED International Conference of Simulation and
Modelling, pp.284-288, May 1996

⑤ T. Watanabe, N. Shimokawa, K. Satoh, T. Niwa and N. Ishii,

“An Extraction of Icons from Color Analog Map and an Identification
of Road Graph Network,”

Proceeding of IATED International Conference of Simulation and
Modelling with AAAI, pp.85-88, August 1997

山下 悠 准教授 博士（商学）

研究テーマ：ビジネス・エコノミクス、特にフランチャイズ・システムに関する研究、中小企業のインターンシップに関する研究

- 著作リスト：①（共著）“Revenue versus incentive: Theory and empirical analysis of franchise royalties” *Journal of the Japanese and International Economies* Vol. 34, pp. 154-161, 2014年
- ② 「フランチャイズ契約におけるロイヤリティ構造—産業間の実態比較—」
『国民経済雑誌』第208巻, 第6号, pp. 81-89, 2013年
- ③（共著）“Franchise Fees and Royalties: Theory and Empirical Results”
Review of Industrial Organization Vol. 40, pp. 167-189, 2012年
- ④（共著）「フランチャイズ方式による海外進出-実証研究の展望-」
『国民経済雑誌』第205巻, 第2号, pp. 1-12, 2012年
- ⑤（共著）“The logic of franchise contracts: Empirical results of Japan”
Japan and the World Economy Vol. 22, pp. 183-192, 2010年

富田 健一 准教授 博士（工学）

研究テーマ：誤り制御方式に関する研究

- 著作リスト：① J. Asatani, T. Koumoto, K. Tomita, T. Kasami, “Reduced Complexity Iterative Decoding Using a Sub-optimum Minimum Distance Search,” *IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences*, Vol. E86-A, No. 10, pp. 2596-2600, October 2003.
- ② J. Asatani, K. Tomita, T. Koumoto, T. Takata, T. Kasami, “A soft-decision iterative decoding algorithm using a top-down and recursive minimum distance search,” *IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences*, Vol. E85-A, No. 10, pp. 2220-2228 October 2002.
- ③ K. Tomita, T. Takata, M. Mori and T. Kasami, “An Efficient Evaluation Method of the Block Error Probability by Using an Importance Sampling Technique.” *Proceedings of 2000 International Symposium on Information Theory and Its Application*, pp. 172-175, Honolulu, Hawaii, November 5-8, 2000.
- ④ K. Tomita, T. Takata and T. Kasami, “An Evaluation Method of the Block Error Probability by Using a Low-Weight Sub-Trellis Diagram,” *IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences*, Vol. E80-A, No. 11, pp. 2104-2110, November 1997.
- ⑤ K. Tomita, T. Takata, T. Kasami and S. Lin, “An Improved Union Bound on Block Error Probability for Closest Coset Decoding,” *IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences*, Vol. E78-A, No. 9, pp. 1077-1085, September 1995.

増山裕一 教授 博士（経済学）

研究テーマ：税法（所得税法，法人税法及び相続税法），事業承継税制，事業再生税制

著作リスト：①（著書）「災害税制の研究：米国災害税制を含めて東日本大震災までを振り返る」
実務出版，2016年2月

②（著書）「勘定科目別法人税・所得税・消費税・相続税の取扱い」
清文社，2007年11月

③（共編著）「これならわかる！ 税法の基本」
実務出版，2015年5月

④（共編著）「わかりやすい所得税の確定申告」
税務研究会，2015年11月

⑤「アメリカの災害税制と東日本大震災（上）（下）」
『大阪経大論集』第64巻第1号，第64巻第2号，2013年6月，8月

◎以下の教員は1頁～10頁、23頁～25頁を参照のこと(掲載順)

中野 桂	教授	Ph. D. (経済学)
佐野洋史	教授	博士(経済学)
田中勝也	教授	Ph. D.
松下京平	教授	博士(人間・環境学)
森宏一郎	教授	Ph. D. (環境経済学・環境マネジメント)
永田えり子	教授	
黒石 晋	教授	
鍋倉 聰	教授	博士(文学)
谷上亜紀	教授	博士(行動科学)
大村啓喬	准教授	博士(国際公共政策)
宗野隆俊	教授	
能登真規子	教授	
青柳周一	教授	博士(文学)
阿部安成	教授	
福浦厚子	教授	博士(人間・環境学)

グローバル・ファイナンス専攻

楠田 浩二 教授 Ph. D. (経済学)

研究テーマ：消費に基づく資本資産評価
金利派生資産評価

- 著作リスト：① “Term Structure Models of Interest Rates with Jump-Diffusion Information: Equilibrium, CAPM, and Derivative Asset Pricing”
Ph.D. Dissertation, Department of Economics
University of Minnesota, October 2003
- ② “Consumption-Based CAPM and Option Pricing under Jump-Diffusion Uncertainty”
Discussion Paper 317
Center for Economic Research Department of Economics
University of Minnesota, April 2003
- ③ “Existence, Uniqueness, and Determinacy of Equilibria in Complete Security Markets with Infinite Dimensional Generator”
Discussion Paper 318
Center for Economic Research Department of Economics
University of Minnesota, December 2002

菊池 健太郎 准教授

研究テーマ：金融資産価格のモデル構築
金融市場の実証分析
ポートフォリオ最適化の理論

- 著作リスト：① 時変な下限を持つ金利期間構造モデル
京都大学数理解析研究所講究録, 2029号, 2017年6月
- ② Quadratic Gaussian Joint Pricing Model for Stocks and Bonds: Theory and Empirical Analysis
Recent Advances in Financial Engineering 2014: Proceedings of the TMU Finance Workshop 2014, World Scientific 2016年4月
- ③ (共著) 「システミック・リスク指標に関するサーベイ：手法の整理とわが国への適用可能性」
『金融研究』第33巻第2号, 2014年4月
- ④ (共著) 「本邦国債価格データを用いたゼロ・クーポン・イールド・カーブ推定手法の比較分析」
『金融研究』第31巻第3号, 2012年7月
- ⑤ 「与信ポートフォリオVaRの解析的な評価法：条件付鞍点法による近似計算の理論と数値検証」
『金融研究』第26巻別冊第2号, 2007年11月

金谷太郎 准教授 博士（経済学）

研究テーマ：マーケットマイクロストラクチャーノイズの計量

著作リスト：①マーケット・マイクロストラクチャー・ノイズがある場合のボラティリティ推定に関する最近の研究 『滋賀大学ワーキングペーパー』，2009年

②Subsampling Cumulative Covariance Estimator
『滋賀大学ワーキングペーパー』，2009年

③Nonparametric Methods of Estimating Integrated Multivariate Volatilities
(with T. Hoshikawa, K. Nagai, and Y. Nishiyama)
Econometric Reviews 27(1-3), 2008年

④Finite Sample Analysis of Weighted Realized Covariance with Noisy
Asynchronous Observations 『京都大学経済研究所ディスカッションペーパー』，2007年

⑤Unbiased Covariance Estimation with Interpolated Data (with R. Reno)
『シエナ大学政治経済学部ワーキングペーパー』，2007年

近藤豊将 教授 博士（経済学）

研究テーマ：財政の維持可能性のマクロ動学分析

非線形関数解析学の応用としての不動点近似問題

著作リスト：①（共著）“Attractive Point and Weak Convergence Theorems for Normally N -Generalized Hybrid Mappings in Hilbert Spaces”.
Linear and Nonlinear Analysis, Vol. 3, No. 2. 2017年10月

②“Sustainability of Public Debt in an AK Model with Complex Tax System”
Inequality and Finance in Macrodynamics 2017年5月

③（共著）“International Linkage of Inflation Rates in a Dynamic General Equilibrium” *Journal of Economics*, Vol. 107, Issue 2. 2012年12月

④“A Note on Public-Debt Sustainability in an Economy with Declining Fertility”
FinanzArchiv / Public Finance Analysis, Vol. 68, No. 2.
2012年6月

⑤“On the Sustainability of Government Borrowing in a Dynamic General Equilibrium,” *Pacific Economic Review*, Vol. 12, Issue 5. 2007年12月

吉田裕司 教授 博士（経済学）

研究テーマ：(1)国際金融の実証研究[為替レートパススルー、外国為替市場介入]、(2)国際貿易の実証研究[輸出マージン、産業内貿易、貿易港別データ分析]、(3)ファイナンスの実証研究[外国為替市場高頻度データ分析、株式市場の国際間の連結性]

著作リスト：①Convergence in Pollution Terms of Trade(with S.Honma), Journal of International Trade & Economic Development, 2019年
②Decomposition of Japan's Trade Balance (with Y. Sasaki), International Review of Economics & Finance, 56, 2018年
③Where at home do exporters produce and export? (with K. Hirose), World Economy, 41(6), 2018年
④We Missed It Again! Why Do So Many Market Orders in High-Frequency FX Trading Fail to be Executed? (with M. Susai) Chapter 13 in Handbook of High Frequency Trading, Academic Press, Elsevier 2015年
⑤The Global Financial Crisis: An Analysis of the Spillover Effects on African Stock Markets (with K. Sugimoto & T. Matsuki) Emerging Markets Review, Vol. 21 2014年

吉田桂 准教授

研究テーマ：地方財政、金融の実証分析

著作リスト：①（共著）東京都の財政運営の検証—財政の維持可能性と歳出・歳入関係の分析—, PRI（財務省財務総合政策研究所）Discussion Paper Series 12A-12, 2012年7月
②滋賀県の財政運営の検証, 滋賀大学経済学部 Working Paper Series No. 293, 2020年2月

井手一郎 准教授

研究テーマ：金融の公共経済学，金融動学，探究の条件

著作リスト：①「公的金融の理論分析」
『滋賀大学経済学部研究年報』第7巻，2000年12月
②（共著）「Financial Cycles」
『Working Paper Series, 69』Shiga University, September 2000.

◎以下の教員は1頁～21頁を参照のこと(掲載順)

得田雅章 教授 博士(経済学)
田中英明 教授
松田有加 教授 博士(経済学)
和田佳之 准教授
吉川英治 准教授
中野桂 教授 Ph. D. (経済学)
石井利江子 准教授 博士(経済学)
佐野洋史 教授 博士(経済学)
田中勝也 教授 Ph. D.
松下京平 教授 博士(人間・環境学)
森宏一郎 教授 Ph. D. (環境経済学・環境マネジメント)
坂田雅夫 准教授 博士(法学)
太田善之 教授
可児島達夫 准教授
野田昭宏 教授 博士(経営学)
赤塚尚之 准教授
増山裕一 教授 博士(経済学)
村松郁夫 准教授